

ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 【2026年7月7日放送分 連坊小路／長泉寺横丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 前回に引き続き、若林区の仙台一高周辺をぶらりです。一高の北側、通りの反対側に早くも辻標が立っていました。コーナー69本目となる辻標には「連坊小路／長泉寺横丁」と刻まれています。

仙台一高前の東西の通りが、連坊小路です。「坊」という字は、お寺の施設という意味です。連坊小路を東へ進むと、陸奥国分寺がありますよね。

陸奥国分寺は8世紀前半の奈良時代、聖武天皇の命令によって全国に整備された国分寺のひとつで、門前から道沿いに僧坊が連なっていたことから、「僧坊街に通じる路」の意味で連坊と呼ばれたとされています。

- また、舟丁の辺りにあった遊郭へ通じる道だったことから、恋い慕うと書いて『恋慕』小路だという説もありますが、こちらはさすがに後付けでしょうか(笑)?

連坊小路の範囲は、西は交番と歩道橋がある五橋交差点から、東は木ノ下1丁目の旧東街道沿いまでの約1.2km。藩政時代には、侍屋敷の警備にあたる小人衆や、鉄砲足軽衆達が暮らす町でした。



- 辻標のもう片面に刻まれているのは「長泉寺横丁」です。しかしこの小さな通りを北に入ってみると、長泉寺というお寺はどこにもありません。

長泉寺は松音寺の末寺で、藩政時代に2度火災に遭って荒廃し、明治維新後は本寺である松音寺に吸収合併されてしまったのです。松音寺はというと今の連坊小路小学校の場所にありましたが、元々長泉寺があった通り沿いに移されて来ました。

松音寺の山門は、政宗公が晩年を過ごした若林城の城門を移築したものとされ、仙台市の登録文化財となっています。緑の苔とモミジの大木が見事な境内です。

一方の長泉寺は、今となっては通りの名前にその名を残すのみです。 〈文・佐々木淳吾〉